



外国人材にも色々な希望がある

いよいよ、外食分野でも特定技能2号運用についての方針・要領が令和5年8月31日に示されました。今後の人手不足を大きく意識した就労枠緩和の内容とも読み取れ、これを機に多くの外食への就労を経験する外国人材が増えていくと推測されます。その先には彼ら彼女らの流動性が上がり、待遇面だけではなく、心のグリップも必要になっていくでしょう。

さて今回は、ミャンマーから日本に同時にやってきた3人の方々についてのお話をさせていただきます。彼らは、母国で技術系の大学を卒業後、ミャンマーでの日本企業の面談を経て日本にやってきました。当初の彼らの思惑は、5年でしっかり稼いでミャンマーに戻って会社をやりたいと言っていました。そんな中、ミャンマーのクーデターやコロナ禍と彼らを取り巻く状況が一変していきます。様々な不安がある中、日本での日々の生活を粛々とつづけました。やがて、いろいろなことが落ち着いてくると、彼ら3人はパートナーとの関係を重視するようになりました。

Nさんは、同郷の長年同棲していたパートナーと結婚し、日本で子供を授かりました。彼は子供を育てるには日本が良いと判断し、管理者・技術者として日本で出世していく事を望んでおり、受入企業も管理者として抜擢し、彼の育成に力を注いでいます。

Aさんは、広島と大阪で遠距離恋愛をしていた同郷のパートナーと暮らすために結婚を選択し、広島へと移動しました。幸せそうなSNSでのお二人の姿を私は楽しみに見えています。

Rさんは、つい先日、ミャンマーに残してきたパートナーと結婚をしました。あと数年日本で働き、ミャンマーへ戻って起業することを計画しています。

ここには、お金の為だけに稼ぎに来ているというステレオタイプの外国人労働者は一人もいません。移ろいゆく人生のなか、家族を大切にしながら異国で懸命に生き抜く若者たちがいるだけです。彼らと働くみなさまには、相手を知る事から始める外国人材の心のグリップをお勧め致します。

浜田化学株式会社 (ORA 賛助会員社)
代表取締役社長 岡野嘉市
(ORA 外国人雇用促進部門会 業務委員)

.....
廃食油リサイクル中心に衛生管理、SDGs サポートなどの
食品産業ソリューションを全国で展開しています。

